愛隣幼稚園
園だより
０９．１０月号

大人たちも仲間に

夏期保育の始まる頃から、毎日のように“新型インフルエンザ”の流行を懸念するニュースがあふれていました。幼稚園の近隣の学校でも学級閉鎖・学年閉鎖という報告を聞くようになりました。私たち職員も出来る限り感染を抑えることに努力しなければならないと考え、各ご家庭へも協力をお願いしてきています。そんな中、私が出掛ける会合では必ず「犯人捜しはやめましょう」ということが話題になります。この流行は誰から始まったのかという事がどこでも大きな関心事になり、いじめの原因にもなりかねないというのです。本当にそんな事になってしまうのでしょうか？この話を聞いた時私の頭には「大変だったわね。具合はどうなの？なにかできることない？」と声をかけてくれる愛隣の母たちの顔が浮かびました。お世辞じゃないんです。愛隣ではそんな騒ぎにはなりにくいだろうなぁと思う事ができるのです。送り迎えで毎日顔を合わせているからでしょうか。あの子もこの子も、あの子のお母さんも、この子のお母さんも愛隣の仲間になっている。お互いに関係性をもった当事者同士で他人ではないのです。だから相手が感染の原因かどうかはあまり問題にはなりません。むしろその相手は心配の対象になるのです。当たり前と言えば当たり前のことですが。

さて、運動会がやってきます。園庭に白線が引かれると子ども達はバトンを持って走り始めます。２、３日たった朝のこと、うちゅう組の K 君のお母さんがなぜか涙目です。「どうしたの？」「あの子が襷なんかして走ってるの見たらもうダメ、泣けてきちゃって・・・」「早過ぎるでしょう」「先生だって、今年も泣かないようにネ！」「・・・」やぶ蛇です。愛隣の運動会。名物は“大人のつなとり？”“野外劇”そして“年長のリレー”たった数分間のリレーですが、その日までの子どもたちの毎日がすべて凝縮されています。まさに筋書きのないしかし極上のドラマが展開されます。ただ楽しかった子も、やりたくないと言っていた子も、勝つことに必死だった子も、この日にはどの子も主役になってただひたすらにゴールを目指して走っています。こんなに真っ直ぐな気持ちで、仲間を感じて一生懸命になる一瞬は本当にかけがえのないものです。そして、その姿に共感して、必死に声援を送る大人たちがいる。共に過ごした日々を子ども達だけでなく、大人たちも共有しているから、うちの子だけじゃない。あの子のこの子の成長が嬉しくて泣けてきてしまう。年長の親たちだけでなく、運動会に参加している大人たちが子ども達の姿に圧倒されながら、時間と空間を共有し一瞬にして仲間になっている。

愛隣の仲間になっている。

子ども達には仲間がいるって素敵だと感じてほしい。同じように大人たちにも良い仲間になってほしいと願っています。ほどよい距離間とタイミング、カユイ所に手が届く、そんな仲間と泣いたり笑ったりできる幸せ。幼稚園時代を共に過ごした大人たちもかけがえのない仲間です。